

# 経済・金融 フラッシュ

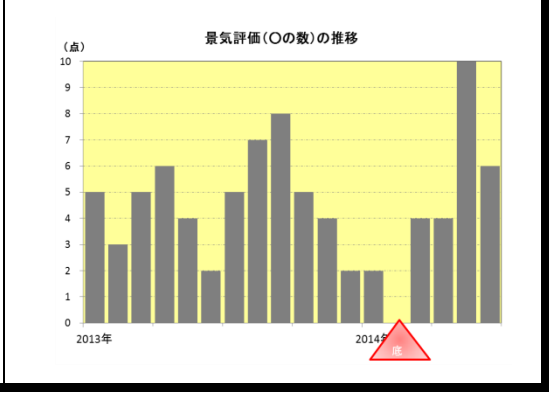
## 中国経済:14年6月の景気評価 ～前月より4点下がって6点(10点満点)

経済研究部 上席研究員 三尾 幸吉郎

TEL:03-3512-1834 E-mail: mio@nli-research.co.jp

○6月の景気評価は、10指標のうち6つが上向きとなる6点で、5月よりも4点の低下となった。6月に上向き(○)から下向き(×)に転じたのは、小売売上高、輸出金額、工業生産、電力消費量の4指標である。

○6月に景気評価が下がった背景には、比較対象となる3月が出来過ぎだったことがあり、また半分を上回る6点を維持していることを考えれば、中国の景気が悪化に転じたと考えるのは時期尚早だろう。



### [ 景気評価は4点下がって6点 ]

中国では6月の景気10指標<sup>1</sup>が出揃った。6月の景気評価は、10指標のうち6つが3ヵ月前と比べて上向き(○)となる6点で、5月よりも4点の低下となった。6月に上向きから下向き(×)に転じたのは、小売売上高、輸出金額、工業生産、電力消費量の4指標である。ここもとの景気評価の推移を見ると、2月には0点と景気は最悪期(底)を迎えていたが、その後は上向き5月には10点満点となった。そして、6月の景気評価は半分をやや上回る6点となった(図表-1)。

(図表-1)

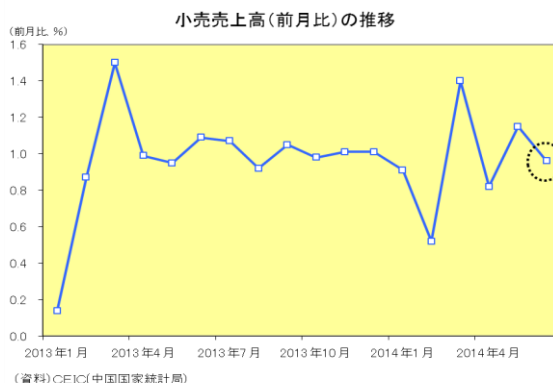
使用データ種類	需要面			供給面			その他				総合 ○の数 (点)
	小売売上高	固定資産投資	輸出金額	工業生産	製造業PMI	非製造業 商務 活動指数	電力消費量	貨物輸送量	生産者物価(PPI)	通貨供給量(M2)	
	前月比	前月比	前月比	前月比	原数値	原数値	前年同月比	前年同月比	前月比	前年同月比	
2013年1月	×	○	×	×	○	○	×	○	—	○	5
2013年2月	×	○	×	×	×	×	×	×	○	○	3
2013年3月	○	○	×	×	×	×	×	×	○	○	5
2013年4月	○	×	○	○	○	×	○	×	×	○	6
2013年5月	○	×	○	×	○	×	×	×	×	○	4
2013年6月	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	2
2013年7月	○	×	×	×	×	×	○	○	○	×	5
2013年8月	×	×	○	○	○	×	○	○	○	×	7
2013年9月	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	8
2013年10月	×	×	×	×	○	○	○	○	○	×	5
2013年11月	○	×	○	×	○	○	×	×	×	×	4
2013年12月	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	2
2014年1月	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	2
2014年2月	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	0
2014年3月	○	×	○	○	×	×	×	×	×	×	4
2014年4月	×	×	○	○	×	○	○	×	×	×	4
2014年5月	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	10
2014年6月	×	○	×	×	○	○	×	○	○	○	6

<sup>1</sup> 10指標を選択した理由など概要は、「中国経済:最近の景気回復は本物なのか?～需給両面や電力消費・貨物輸送など景気10指標でチェックして見ると・・・」Weeklyエコノミスト・レター 2014/06/27号を参照

## [ 需要面を見る 3 指標 ]

需要面を見る 3 指標では、固定資産投資は○を維持したものの、小売売上高と輸出金額が×に転じた。固定資産投資（除く農家の投資）は6月も前月比（季節調整後）で1.45%増と4月の同1.23%増を底に2ヵ月連続で加速したものの、小売売上高と輸出金額は、比較対象となる3ヵ月前（3月）が出来過ぎだったこともあって、下向き（×）に転じたものと見られる（図表-2）。

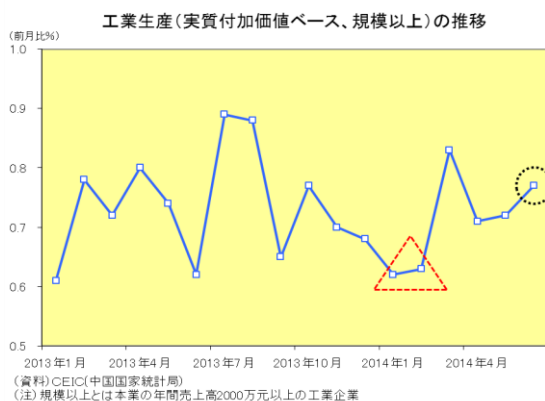
(図表-2)



## [ 供給面を見る 3 指標 ]

供給面を見る 3 指標では、製造業PMIと非製造業商務活動指数は○を維持したものの、工業生産が×に転じた。6月の製造業PMIは51.0%と4ヵ月連続の改善、非製造業商務活動指数は前月よりは若干低下したものの上向きは維持した。他方、6月の工業生産（実質付加価値ベース、規模以上）は前月比（季節調整後）で0.77%増と2ヵ月連続で加速したものの、出来過ぎだった3月に比べると下向き（×）だった（図表-3）。

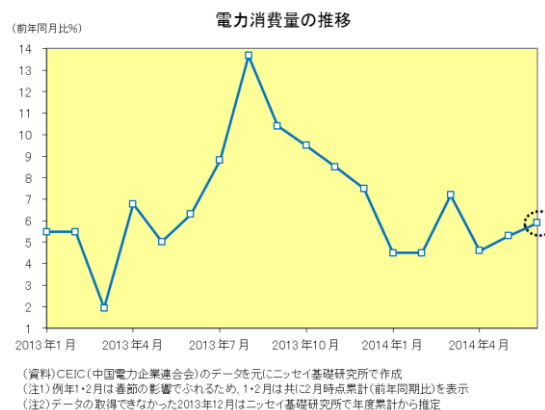
(図表-3)



## [ その他の重要な 4 指標 ]

その他の重要な 4 指標では、鉄道貨物輸送量、生産者物価（PPI）、通貨供給量（M2）は○を維持したものの、電力消費量が×に転じた。鉄道貨物輸送量は2月を底に、PPIとM2は3月を底に回復傾向を維持している。また、電力消費量も6月に前年同月比5.9%増と2ヵ月連続で改善しており、今回4ヵ月ぶりに×に転じたのは比較対象となる3月が出来過ぎだったためと思われる（図表-4）。

(図表-4)



## [ 総括 ]

以上のように、景気評価が6月に下がった背景には、比較対象となる3ヵ月前（3月）が出来過ぎだったことがある（景気が最悪期にあった2月に、中国人民銀行が短期金利を低めに誘導、元高を修正したことで景気が急速に持ち直したため）。また、前月より下がったとはいえ半分を上回る6点を維持していることを考えれば、中国の景気が悪化に転じたと考えるのは時期尚早だろう。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。